



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 46 No. 2
April 2021**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

黒岩先生追悼	11
年会費値上げのお知らせ	13
社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い	14
第48回日本毒性学会学術年会のご案内（第5報）	15
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）	18
第47回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	20

その他のお知らせ

株式会社L S I M安全科学研究所 試験責任者募集	21
----------------------------------	----

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について



故 黒岩幸雄 氏

故 黒岩幸雄氏の略歴

生年月日 昭和6年7月8日（佐賀県武雄市に生まれる）

学 歴

昭和26年3月 佐賀県立武雄高等学校卒業
 昭和30年3月 長崎大学薬学部卒業
 昭和32年3月 九州大学大学院薬学研究科修士課程（衛生化学・裁判化学専攻）修了
 昭和35年3月 九州大学大学院薬学研究科博士課程修了
 昭和37年7月 薬学博士（九州大学）

職 歴

昭和35年4月 東北大学医学部薬学科文部教官助手（衛生化学教室）
 昭和39年9月 アメリカノースカロライナ大学医学部薬理学教室出張
 昭和42年5月 昭和大学薬学部助教授（栄養化学教室）
 昭和45年8月 昭和大学薬学部助教授（毒物学教室）
 昭和49年9月 昭和大学薬学部教授（毒物学教室）
 平成4年4月 昭和大学薬学部教授（臨床薬学教室）
 平成4年4月 昭和大学医学部附属病院薬剤部長（兼務）
 平成7年4月 昭和大学薬学部長
 平成9年3月 定年退職
 平成9年4月 昭和大学名誉教授
 平成19年1月 NPO法人リカバリーサポートセンター副理事長

日本毒性学会における主な活動

日本毒科学会理事（財務委員長）（1990年度～1995年度）
 第10回日本毒科学会毒科学研連シンポジウム実行委員長（1991年）
 第19回日本毒科学会学術年会長（1992年）
 第1回日本毒科学会サテライトシンポジウム“免疫毒性”実行委員長（1992年）

名誉会員 黒岩 幸雄 先生のご逝去を悼む

日本毒性学会名誉会員、黒岩幸雄先生の訃報に接し、痛惜の念にたえません。日本毒性学会一同を代表して、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和30年3月に長崎大学薬学部をご卒業後、九州大学大学院薬学研究科に進学され、昭和37年に薬学博士の学位を取得されました。東北大学医学部薬学科を経て昭和42年に昭和大学薬学部にて助教授として着任され、昭和49年に毒物学教室の教授に就任されました。平成7年には昭和大学薬学部長を務めていらっしゃいます。

本学会においては、理事・財務委員長などの要職を歴任され、平成4年には第19回日本毒科学会学術年会長を務められました。そうした学会の運営や毒性学領域における学術の振興に寄与された大きなご

功績により、本学会の名誉会員になられました。

先生は、日本毒性学会にとどまらず、日本中毒学会理事長を務められ、日本薬学会においても毒性学領域を牽引されました。昭和大学を定年退職された後もNPO法人リカバリーサポートセンター副理事長として活動されました。永年にわたり日本の毒性学の学術と実践において指導的役割を果たしてこられたご功績はまことに顕著であり、ここに先生のご遺徳とお人柄を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。満面の笑みと温かい握手は不滅です。

一般社団法人日本毒性学会 理事長
 菅野 純

黒岩幸雄先生を偲んで

黒岩幸雄名誉会員が2021年1月10日早朝、89歳で逝去された。深い喪失感がある。先生の健康状態を知り、時間の共有をと思い、昨年9月と10月に夕方職場から直接ご自宅を訪ね、ご家族とともに数時間歓談しました。11月は入院のためお訪ね出来ず、コロナ禍でお見舞いも行けないうまででしたが、暮れ30日短時間の面会ができて、笑顔で応答されたので、“またお会いしましょう”と帰ったのが、今生のお別れとなってしまった。

黒岩先生は、本学会の設立時から参画され、理事2期と財務委員長の要職を務められた。また、第19回日本毒科学会学術年会（1992年6月、昭和大学旗の台キャンパス）を主催され、友人Prof. W.J. Waddellと毒性学の世界的重鎮のProf. J. Doullを特別講演者として招待された。また、前日に第1回日本毒科学会サテライトシンポジウム“免疫毒性”も主催された。本シンポジウムは、その後学術大会との連携開催はなかったが、参加者や本学会会員を中心に免疫毒性学会設立への足掛かりとなり現在に至っている。

先生とは、東北大学医学部薬学科衛生化学教室（当時）の同門である。知己を得た頃は、先生は昭和大学での教育・研究を主宰されており、東北地方各県持ち回りの法医学談話会の常連でした。薬学部が現在の青葉山に移転した頃であるが、先生はご自身運転の車で大学院生を連れて法医学談話会に出席され、その後下北半島の恐山へ行き、帰京されたと聞いた。全行程をご自身が運転されたかは不明であるが、車大好きな面目躍如の出来事であった。

先生のお誘いで、昭和54年から昭和大学薬学部で一緒に教育・研究生生活が始まり、40有余年にわたるご厚誼をいただいた。先生は東北大学在職時代から、医学部法医学教室と大学病院と交流され、薬毒物の鑑定や急性中毒物質の分析にも対応され、その流れは昭和大学でも堅持されたように、裁判化学（鑑識化学）は、薬学の領域であった。薬学教育6年制の動きが高まる中で、昭和大学薬学部に臨床薬学教室が開講され、先生が初代教授となられた。著者は、毒物学教室の後任となった。その後は、両教室を相互に行き来しつつ、教育・研究を進めていった。毒の名称の学会はみんな入会しようと、本学会に加え、中毒、法中毒、法医学の薬毒物

関連での中心的な役割も果たされ、各学会開催等への貢献もあり、名誉会員となった。また、厚生省の乱用薬物関連の研究班や東京都監察医務院試料の覚醒剤分析など社会的貢献をされた。1994年松本サリン事件、世界を震撼させた'95年東京地下鉄サリン事件、'98年和歌山ヒ素入りカレー事件など、薬毒物を用いた数々の社会的事件の発生に対し、先生は、マスコミ等のコメンテーターとして八面六臂の大活躍であった。サリン事件被害者の後遺症が問題となり、先生は、NPO法人リカバリー・サポート・センター（R・S・C）に早くから副理事長で参画され、被害者の健康診断事業支援などの社会活動を続けられ、優しさを実践された。サリン事件の後遺症関連では、先生はじめ関係者をお招きし、本学会のシンポジウムがあったので、記憶の方もおられると思う。最近中央紙でもサリン事件からの記憶ということで、被害者が後遺症で未だ苦しんでいることをR・S・Cの活動とともに報道された。NHKのサリン被害15年目を取り上げた報道番組では、取材協力者として先生と私の名前があった。

先生は、大学病院薬剤部長を兼任され、医療系大学院生の病院実習の指導には病院薬剤師は勿論、看護婦（当時）さんとの交流の大事さを認識された。そこで、各診療科の婦長さんや責任者達を会食に招待し、歓談の場を設け、交流を図った。この交流は、薬学の大学院生達の臨床現場での実習教育を順調に進める一端となったと思う。先生はお酒の席をこよなく愛し、誰とでも笑顔で対応され、かつ旗の台では、行きつけの「旗の寿司」で歓談を楽しまれた会員の方々も多いのではなかろうかと。豪放磊落で、懐が深く（懇談の際の懐具合の深さの意味も）、気配りの利く黒岩流儀を貫いた生涯であった。

先生との40年以上にわたる忘れ難き数多くの思い出が走馬灯のように回っていますが、紙面の都合もあり、ここまでとします。心からのご冥福をお祈りし、“黒岩幸雄先生を偲んで”といたします。

公益社団法人薬剤師認定制度認証機構 代表理事/昭和大学名誉教授
吉田 武美

畏友黒岩幸雄先生を悼む

黒岩幸雄先生（昭和大学名誉教授、日本毒性学会名誉会員）が2021年1月10日にご逝去されました。1月15日に友人から黒岩先生が亡くなられたとの知らせを受けて絶句しました。黒岩先生と私は同じ年齢で50年来の友人です。先生は日本毒性学会の理事、名誉会員、年会長（1992）として長年にわたり学会の発展に大きく貢献されました。先生のご専門分野は農薬毒性、中でも有機リン剤の毒性であり、それについては多くの研究業績を挙げられています。その中で特筆すべきことは、1995年に都心で発生したオウム真理教による地下鉄サリン事件です（詳細は、佐藤哲男、「被害者が語る地下鉄サリン事件（15年目の証言）」、安全性評価研究会ホームページ、2010年5月17日特別寄稿文参照）。サリンは有機リン剤で、これに暴露するとアセチルコリンエステラーゼの不可逆的阻害により副交感神経系が興奮します。それにより、サリン事件の被害者は、かすみ目、脱力感、吐き気、頭痛などの症状を示し、不幸にも死亡した被害者も出ました。26年経った現在でも後遺症に悩まされている患者がいます。事件後、黒岩先生はサリン被害者を救済す

るためにNPO法人「リカバリーサポートセンター（R・S・C）」を設立されて副理事長としてご活躍されました。

黒岩先生は国内における裁判化学の唯一生き残りの研究者でした。裁判化学は事件で使われた毒物を鑑定する学問です。昔は薬学教育の中で衛生化学の一分野として多くの研究者がいました。医学部の法医学と共に裁判の進行に重要な役割を果たしていました。残念ながら現行の薬学教育カリキュラムには含まれていません。

黒岩先生は豪放磊落な性格で、教え子や他人が困っていることを見過ごすことができない親分気質でした。いつでも気軽に多くの友人、教え子と美酒を交わした黒岩先生は多くの人々に惜しまれながら旅立ちました。もう二度とあの温顔に接することができないと思うと誠に残念です。心からご冥福をお祈り致します。 合掌

日本毒性学会名誉会員/千葉大学名誉教授
佐藤 哲男

年会費値上げのお知らせ

一般社団法人 日本毒性学会
社員各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、2019年度第2回理事会（2020年2月17日開催）において、2021年度より、本会の年会費の一部値上げをお願いすることが決議され、2020年度評議員会・社員総会（2020年6月29日 オンライン開催）にて付議され、承認されました。

年会費の見直しは、総務委員会に設定された企画戦略WGが中心となって本学会の発展と次世代へ向けた企画検討の結果、学会のグローバル化、講習会・シンポジウム等のライブ配信及びWebinar企画、学術年会要旨等の電子化への対応が示され、これを実現すべく年会費増額の提案に至りました。

社員の皆様には、何卒ご理解賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

評議員および一般・学生会員は会員専用マイページにログインし、所定の手続きを行なうことによって2021年度年会費のクレジットカード決済が可能となっております。2020年度以前の未払いの年会費についても、同様の手続きでクレジットカード決済が可能ですので、ぜひご利用ください。なお、従来どおり郵便振込による会費納入も可能です。振込先口座情報は、マイページのクレジットカード決済画面にてご案内いたしておりますので、そちらをご参照ください。5月末日までにクレジットカードか郵便振込による会費納入が確認できなかった場合、該当の会員宛には、6月以降、郵便振込用紙を順次郵送します。

2021年度より年会費	一般会員： 7,000円	⇒	9,000円
	評議員： 10,000円	⇒	12,000円
	学生会員： 3,000円	⇒	変更ありません

一般社団法人 日本毒性学会
理事長 菅野 純

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第4章に定められておりますように「社員総会」を、以下の要領で2021年学術年会期間中に開催いたします。ご承知のとおり、本学会は2014年（平成26年）5月1日に一般社団法人となり、重要な案件は社員総会で決定されます。第48回日本毒性学会学術年会はハイブリッドで開催される運びとなりましたが、社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、現地またはWebにてご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。なお、本委任状回答システムへの入力のご案内は2021年4月以降にメール等にてご連絡させていただきます。

2021年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会

日 時：2021年7月8日（木）13時30分～14時50分

場 所：第48回日本毒性学会学術年会 第1会場（神戸国際会議場 国際会議場301）

議 案：1. 2020年度事業報告および収支決算
2. 2021年度事業計画および収支予算
3. その他

社員総会の決議には、定款第24条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の「過半数」を有する社員の出席が必要です。定足数に満たない場合は社員総会として成立しなくなり、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会に欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状の提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年 4月
一般社団法人日本毒性学会
理事長 菅野 純

第48回日本毒性学会学術年会のご案内 (第5報)

(年会ホームページ: <http://www.jsot2021.jp/>)

1. 会期

2021年7月7日(水)～7月9日(金)

この度の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学術年会の開催については慎重に検討させていただきました結果、「ハイブリッド開催」にて学術発表・展示会を実施することといたしました。

皆様には、開催方法変更によりお手数をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

2. 会場

神戸国際会議場
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1
TEL: 078-302-5200
URL: <https://kobe-cc.jp/ja/facilities/conference-center/>

3. テーマ

Beyond the crisis - 生命の存続に貢献する毒性学

4. 年会長

福井 英夫 (Axcelead Drug Discovery Partners, Inc.)

5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

朝倉 省二 (エーザイ (株))
石塚真由美 (北海道大学)
小川久美子 (国立医薬品食品衛生研究所)
小椋 康光 (千葉大学)
鍛冶 利幸 (東京理科大学)
菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)
熊谷 嘉人 (筑波大学)
小林 章男 (日本たばこ (株))
佐藤 雅彦 (愛知学院大学)
篠澤 忠紘 (武田薬品工業 (株))
渋谷 淳 (東京農工大学)
杉山 圭一 (国立医薬品食品衛生研究所)
鈴木 睦 (協和キリン (株))
角 大悟 (徳島文理大学)
高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研究所)
角崎 英志 ((株) 新日本科学)
直田みさき (医薬品医療機器総合機構)
栗形麻樹子 (国立医薬品食品衛生研究所)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
堀井 郁夫 (ファイザー)
真木 一茂 (医薬品医療機器総合機構)
松本 清 (武田薬品工業 (株))
三島 雅之 (中外製薬 (株))
宮脇 出 (大日本住友製薬 (株))

森 和彦 (第一三共 (株))
山田 久陽 (大正製薬 (株))
吉岡 靖雄 (大阪大学)
吉成 浩一 (静岡県立大学)

6. 特別企画 (予定, 敬称略, 仮題, 順不同)

- 1) 第18回市民公開セミナー
日時: 2021年7月10日(土) 14:00～15:30
会場: 神戸芸術センター
(1) 「高齢者の目の病気」
西田 幸二 (大阪大学)
(2) 「最近増えてきた、胃腸のアレルギー病」
木下 芳一 (姫路循環器病センター)
- 2) 年会長招待講演
「iPSを用いた角膜移植」
西田 幸二 (大阪大学)
- 3) 特別講演
(1) 「睡眠覚醒の謎に挑む」
柳沢 正史
(筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 (WPI-IIS))
(2) “Risk and Benefit on Vaccine or Nonvaccine Therapeutic Interventions for COVID-19”
Kenneth Hastings (元FDA, US consultant)
(3) “Development Challenges for Carcinogenicity Risk Assessments of Topical Drugs”
Brett D Hollingshead
(Pfizer Drug Safety Research and Development, USA)
- 4) 教育講演
(1) 「オルガノイド医療の可能性」
武部 貴則
(東京医科歯科大学統合研究機構)
(2) 「新型コロナウイルスの変異・免疫・ワクチン」
児玉 龍彦
(東京大学先端科学技術研究センター)
(3) 「炎症毒性のない免疫増強剤(アジュバント): 安全性の高いワクチン開発へ向けて」
瀬谷 司
(青森大学ねぶた健康研究所, 北海道大学医学研究院)
(4) 「亜鉛イオン神経毒性の制御による進行性神経変性疾患の新規防御戦略」
武田 厚司
(静岡県立大学薬学部統合生理学分野)
(5) 「Patient Centricity - 製薬会社における毒性学の重要性」
真鍋 淳 (第一三共 (株))

- (6) “Computational toxicology and the regulatory environment – past, present, and future”
David R Woolley (ForthTox Limited, UK)
- (7) “The US FDA’s Coronavirus Treatment Acceleration Program (CTAP) and Considerations for Pre-IND Meeting Requests”
“Integrated Review Process within the Office of New Drugs”
Stephanie Leuenroth-Quinn (US FDA)
- (8) “Streamlined Development Approach to Evaluating Severely debilitating or life-threatening indications (SDLTs) Therapeutics and Vaccines”
Judith Prescott (Merck & Co., Inc., USA)
- (9) “The Coming Conquest of COVID”
Robert W. Amler (New York Medical College, USA)
- 5) シンポジウム (30 セッション)
- ・基礎発生学と先天異常学から学ぶ毒性エピジェネティクス 2.0
 - ・日本実験動物学会合同シンポジウム：毒性研究におけるヒト化動物の利用
 - ・毒性機序の理解とリスク評価へ向けた化学物質センサー転写因子研究
 - ・パンデミック感染症に対する医薬品の非臨床安全性評価 (COVID-19 から学ぶ)
 - ・生体金属部会シンポジウム ～メタロチオネン機能の新たな展開～
 - ・実験動物としてのサルを考えるーバイオ医薬品の種差とヒト予測ー
 - ・薬剤性痙攣のリスク評価
 - ・遺伝毒性リスク評価の新たな胎動ーゲノム不安定リスク研究の夜明けー
 - ・遺伝子治療用製品の安全性評価と今後の展望
 - ・感染症の予防と治療における生殖発生毒性
 - ・化学物質の安全性評価にかかわる AI とインフォマティクス
 - ・ヒト ES 細胞/iPS 細胞を用いた毒性データベースによる毒性評価
 - ・腎毒性を考えるー臨床薬剤師、基礎研究の立場からー
 - ・日本毒性病理学会合同シンポジウム：毒性病理学会からのトピックー化学物質の安全性評価に向けた機序解明アプローチー
 - ・子供の毒性学：脳の発達を中心に
 - ・2035 年の医薬品安全性評価ー動物実験代替法を考える
 - ・事例報告 “非臨床で見られた毒性の臨床への予測性”
 - ・薬物誘発性の心機能変化に向けた in vivo 安全性評価戦略に関する新展開
 - ・医薬品における Computational Toxicology の普及：Ontology 思考下でのシステム構築の事例報告
- ・日本癌学会合同シンポジウム：発がん性評価法の分子背景と展望ーエピゲノム、変異シグネチャーから見たヒト外挿考察ー
 - ・世界における農薬の安全性評価の最新事情
 - ・xenobiotics 代謝と解毒の動物種差
 - ・日本免疫毒性学会合同シンポジウム：多様な医薬品モダリティに対応する免疫毒性研究の最前線
 - ・日本中毒学会合同シンポジウム：吸入剤による中毒の基礎と臨床
 - ・次世代研究セミナー：マイクロバイオームと毒性学
 - ・再生医療等製品に関する毒性評価
 - ・肺毒性の分子背景
 - ・毒性オミクスにおけるエピジェネティクス情報を加えた人工知能解析
 - ・SOT 合同シンポジウム
 - ・ACT/JSOT Joint Session：Nonvaccine Therapeutic Interventions for COVID-19
- 6) ワークショップ (6 セッション)
- ・消化管毒性評価の新展開
 - ・トキシコロジストがんサバイバーからの抗がん剤治療報告
 - ・癌薬物療法における薬剤性副作用のサイエンスと支持療法
 - ・新毒性質問箱：医薬品開発者と PMDA で対話をはじめよう
 - ・限定エクスポゾームの新たな展開
 - ・GLP 業務の「New normal」の展望
- 7) トキシコロジストのキャリア形成支援プログラムー AI-Powered トキシコロジストを目指してー
7. 一般演題
- 1) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて 10～15 分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上、4 月下旬に主発表者へ E-mail にてお知らせいたします。発表方法は、現地もしくは Web 会議システムを利用したライブでの発表となります。ポスター発表は、現地でのポスターパネルへの掲示は行わず、e-ポスターによる期限を決めた閲覧型式として行う予定です。
- 2) 優秀研究発表賞応募演題
2021 年 3 月 31 日時点で 35 歳以下の方を対象とします。
応募者は e-ポスター発表に加え、現地もしくは Web 会議システムを利用したライブでの口頭発表と質疑応答を第 1 日目 (7 月 7 日 (水)) に行ってください。受賞者の発表は、第 3 日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与

します。

- 3) 学生ポスター発表賞応募演題
学術年会（2021年7月7日（水））の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象とします。
 審査はポスター発表内容のみで行います。（メールによる質疑を含む。）対象のポスターは、e-ポスター掲載を行っていただきます。受賞者の発表は、第3日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与します。
なお、今回応募者には、学術年会発表時のポスター原稿を、電子媒体として発表の1週間前にご提出いただき、事前審査を行います（e-ポスターによる事前審査）。ご了承下さい。詳細は発表者へメールにてご案内いたします。

※上記, 2), 3) の賞への重複申請は不可とします。

8. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日：
 2021年5月10日（月）

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と懇親会費は「課税（消費税込）」となります。

カテゴリー	早期参加登録*1	事前参加登録*2	参加登録
会員	12,000円	14,000円	16,000円
学生会員	3,000円	4,000円	5,000円
関連学会会員*3	13,000円	15,000円	17,000円
非会員	15,000円	17,000円	19,000円

* 1 2021年3月31日（水）まで

* 2 2021年4月1日（木）から5月10日（月）まで

* 3 次の学会会員の方です。（50音順）

共催：日本中毒学会
 日本毒性病理学会
 日本免疫毒性学会
 日本薬理学会
 米国 SOT (Society of Toxicology)

協賛：日本安全性薬理研究会
 日本医薬品情報学会

日本衛生学会
 日本環境変異原ゲノム学会
 日本産業衛生学会
 日本実験動物学会
 日本獣医学会
 日本食品衛生学会
 日本食品化学学会
 日本先天異常学会
 日本動物実験代替法学会
 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）
 比較眼科学会
 日本薬学会
 日本薬物動態学会

2) お支払い方法

- ・クレジットカード
- ※決済等の詳細については、年会ホームページをご確認下さい。
- ※年会参加費には、下記が含まれます。
 - ・領収証（参加費お支払い完了後にメニューページよりダウンロード可能になります）
 - ・参加証明証（会期後にメニューページよりダウンロード可能になる予定です）
 - ・年会プログラム要旨集（PDF）
- ※冊子体は希望者のみ配布いたします。

9. 懇親会

中止となりました。

10. 展示、ランチョンセミナーなどの募集

展示、ランチョンセミナー、広告掲載を募集します。詳細については年会ホームページをご覧ください。

11. 年会事務局

〒251-0012 神奈川県藤沢市村岡東二丁目26番地の1
 Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社
 事務局長：大塚 博比古
 事務局次長：吉田 唯真, 林 良太
 E-mail：secretariat@jsot2021.jp

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとして学習を継続し知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会を開催しております。いずれの講習も動画配信形式で行います。視聴期間は限定されますが、ご都合に合わせて学習頂くことが可能となっております。

「第24回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。受講者の皆様には4月中旬に資料のダウンロード及び視聴方法をご案内いたします。

1. 日時

2021年4月下旬～認定トキシコロジスト試験前まで

2. 形式

WEB開催

「第22回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピックス、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には6月中旬に資料のダウンロード方法及び視聴方法をご案内いたします。

1. 視聴期間

7月7日（水）～7月16日（金）

2. 形式

WEB開催

3. プログラム

1) SOT2021 報告：

田邊 思帆里 先生（国立医薬品食品衛生研究所）
「Guidelines for Developing and Implementing Organ-on-a-Chip/Microphysiological Systems for Toxicity Evaluation of Drug Candidates in Drug Development」

吉川 理恵 先生
（Novartis Institutes for BioMedical Research）
「Navigating New Modalities: A Preclinical Roadmap for Developing Novel Oligonucleotide Safety Strategy」

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー：“感染・免疫機能”

真木 一茂 先生
（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）
「ワクチン安全性評価の基礎と課題（仮）」

高橋 享子 先生（武庫川女子大学）
「食物アレルギーの解説（種類・メカニズム・検査法・臨床・治療）（仮）」

小池 英子 先生
（国立研究開発法人 国立環境研究所）
「環境」（仮）

今岡 尚子 先生
（第一三共株式会社）
「非病理学者のための病理学講義－免疫系の構造と毒性変化（仮）」

4. 参加費（1日フルコースとして設定）（予定）

事前申込	
会 員	5,000 円
非会員	7,000 円
認定トキシコロジスト	3,000 円

「認定トキシコロジストの試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は6月上旬、締め切りは8月中旬を予定しています。なお、可能な限り、2018年5月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他、詳細につきましては、2021年6月にご案内いたします。

「第24回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. 日 時（予定）

2021年9月26日（日）/ 予備日10月3日（日）
台風等の自然災害により9月26日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、2日前（9月24日17時）までに受験者へご連絡いたします。

2. 会 場（予定）

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料（予定）

30,000 円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2001年、2006年、2011年、2016年に認定トキシコロジストに認定された方となります。毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

第 47 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 47 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 47 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

その他のお知らせ

株式会社LSIM安全科学研究所 試験責任者募集

職種名	非臨床試験の試験責任者
職務内容	一般毒性試験, 安全性薬理またはトキシコキネティクス (TK) 試験の試験責任者業務
募集人数	若干名
応募資格	①一般毒性試験 (ラット, マウス, イヌ, サル), ②安全性薬理コアバッテリー試験 (特に動物試験) または③ LC-MS(/MS) 法による TK 試験の経験者 経験年数は不問 試験責任者の経験を有する方を歓迎
勤務地	①茨城県神栖市又は熊本県宇土市, ②及び③茨城県神栖市
待遇	別途ご相談
応募方法	履歴書, 職務経歴書, 研究内容等を E-mail にて送付
応募締切	随時
連絡先	株式会社LSIM安全科学研究所 総務部 担当者: 星野 信人 〒 314-0255 茨城県神栖市砂山 14 番地 1 TEL : 0479-46-2871 FAX : 0479-46-2874 E-mail : hoshino.nobuhito@md.medience.co.jp
その他	

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

特に重要な改変があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

新しい発見を 変わらない品質で

私たち日本クレアは、生命のあらゆる可能性を探求し発展させる基盤として、動物愛護のグローバルな視点に立った世界最高品質の実験動物を提供して参ります。



マウス・ラット・マーモセット

● クローズドコロニー

- マウス** Jcl:ICR
- ラット** Jcl:SD, Jcl:Wistar
Br/Han:WIST@Jcl(GALAS)

● 近交種

- マウス** C3H/HeNjcl, C3H/HeJjcl*
C57BL/6Njcl, C57BL/6Jjcl*
BALB/cAjcl, BALB/cByJjcl*
FVB/Njcl, DBA/2Jjcl*, 129^{+Ter}/Svjcl
- ラット** F344/Jcl

● ハイブリッド系

- マウス** B6C3F1/Jcl, B6D2F1/Jcl
MCH(ICR)/Jcl (Multi Cross Hybrid)

● 疾患モデル

免疫不全モデル

- マウス** BALB/cAjcl-*nu*
C.B-17/ICr-*scid* Jcl
NOD/Shijic-*scid* Jcl
ALY[®]/NscJcl-*aly*

- ラット** F344/Njcl-*rnu*

1型糖尿病モデル

- マウス** NOD/Shijcl

2型糖尿病モデル

- マウス** KK/Tajcl, KK-A^y/Tajcl
BKS.Cg-*m*+/*Lepr^{db}*/Jcl*

- ラット** GK/Jcl, SDT/Jcl, SDT fatty/Jcl

アスコルビン酸合成能欠如モデル

- ラット** ODS/Shijcl-*od*

● 疾患モデル

網膜変性疾患モデル

- ラット** RCS/Jcl-*rdy*

関節リウマチモデル

- マウス** SKG/Jcl

外用保湿剤・外用殺菌消毒薬効果検証モデル

- マウス** NOA/Jcl

● 遺伝子改変動物

短期発ガン性試験モデル

- マウス** CByB6F1-Tg (HRAS)2Jic

乳腺がん高感受性モデル

- ラット** Hras128/Jcl

脾がん短期発ガンモデル

- ラット** Kras301/Jcl

生体恒常性維持機構解析モデル

- マウス** *α*-Klotho KO/Jcl

- マウス** *klotho*/Jcl

アレルギーモデル

- マウス** OVA-IgE/Jcl (卵アレルギー)
TNP-IgE/Jcl (化学物質アレルギー)

● Germ free

- マウス** MCH(ICR)/Jcl [Gf], C57BL/6Njcl [Gf]
BALB/cAjcl [Gf]

● コモンマーモセット

- Jcl:C.Marmoset(Jic) (国内生産)

その他の取り扱い動物

● (公財) 実験動物中央研究所維持系統

● フェレット (輸入販売)

生産地：中華人民共和国／輸入販売代理店
(株)野村事務所を通じて国内販売

実験動物用飼料

一般動物用飼料／家畜・家禽試験用飼料／放射線減菌飼料／特殊配合飼料／成分分析

器具・器材

飼育ケージ／飼育機・ラック／自動飼育システム／クリーンエアシステム／バイオハザード対策システム／空調設備・排水処理システム／管理・実験機器／施設計画コンサルティング

受託業務

微生物学的クリーニング／遺伝子改変マウスの作製／モノクローナル抗体作製／受精卵採取・凍結処理／凍結受精卵の供給／系統維持及び生産／各種処置動物作出／マイクロバイオーム研究のサポート(無菌動物・ノトバイオームマウス作製および受託試験)／各種受託試験 他

関連業務

動物輸出入／微生物モニタリング／遺伝モニタリング／各種データ／情報サービス

業務提携

Physiogenex社(仏)：代謝性疾患領域に特化した薬効薬理試験受託サービス
(株)ジーピーシー研究所：イメージングマウスの作製サービス

* This substrain is at least (a number > 20 by definition) generations removed from the originating JAX® Mice strain and has NOT been re-infused with pedigreed stock from The Jackson Laboratory. ®



www.CLEA-Japan.com

東京 A D 部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7050(代)
大阪 A D 部	〒564-0053 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7101(代)
【動物・飼料のご注文先: AD受注センター TEL.03-5704-7123】		
東京器材部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7600(代)
大阪器材部	〒564-9953 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7105(代)
札幌出張所	〒063-0849 札幌市西区八軒九条西10-4-28	TEL.011-631-2725(代)
仙台出張所	〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1丁目30-24	TEL.022-352-4417(代)

医薬品開発をトータルにサポート

探索試験

前臨床試験

臨床試験

申請対応

- High Quality -

高品質なデータの提供

- Globalization -

グローバルな事業展開

- Prompt Response -

迅速なサービスの提供

豊富な経験と充実した支援体制

- AAALAC International (国際実験動物ケア評価認証協会)

全施設で完全認証を継続



- FDA IND/NDA電子化申請対応 (CDISC SEND)

- 年間400試験を超えるバイオ医薬品の受託実績

- 最新機種を導入

① LSRFortessa X-20
(BD Biosciences)



② NanoZoomer S360
(Hamamatsu Photonics)



③ Triple TOF 6600 plus
(AB SCIEX)



ケー・イー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

▶ HepaRG®・初代肝細胞



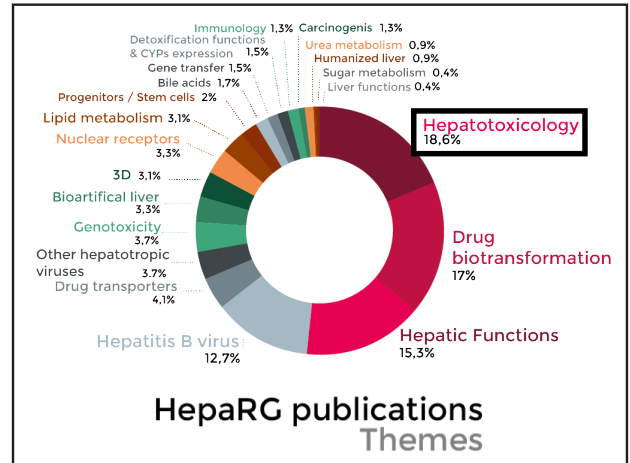
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

【HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！】

- ①ミトコンドリア毒性の評価
- ②反応性代謝物による肝毒性評価
- ③炭水化物および脂質代謝評価
- ④胆汁うっ滞の評価

■ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。



▶ ECACC標準株細胞

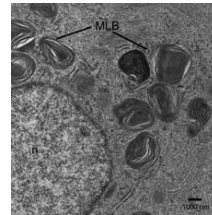
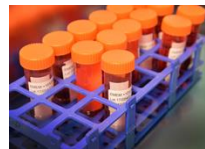


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

【メリット！】

- ①スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ②プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ③幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ④KACによる迅速な技術サポート体制



▶ 肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

【試験例】

- ①代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ②早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等



<https://www.saibou.jp/>

▶これらの製品情報を細胞.jpでお調べ頂けます



株式会社 ケーイーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先

試薬事業部

TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

SLCの実験動物



マウス

●アウトブリード

Slc: *cd1*

☆ RCS

Slc: ICR

●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)

BALB/cCrSlc

C57BL/6NcrSlc-C57BL/6JmsSlc

C3H/HeSlc

C3H/HeNslc

C3H/HeJYokSlc

DBA/2CrSlc

NZW/NSlsc

A/JmsSlc

AKR/NSlsc

NC/NgaSlc(薬物アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)

CBA/NSlsc

129x1/SvJmsSlc

●B10コンジュニック

C57BL/10SnSlc

B10.A/SgSnSlc-B10.BR/SgSnSlc

B10.D2/SgSnSlc-B10.S/SgSlc

●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:CBDF1)

CB6F1/Slc(Slc:CBF1)

CD2F1/Slc(Slc:CDF1)

B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)

※上記以外の系統については御相談ください。

●ヌードマウス(ミュータント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)

KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)

●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)

C3H/HeJmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{gpr}*)

C57BL/6JSlc-*gld*(自己免疫疾患-*Fas^{gld}*)

C57BL/6JmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{gpr}*)

MRL/MpJmsSlc-*Jpr*(自己免疫疾患-*Fas^{gpr}*)

NZB/NSlsc(自己免疫疾患)

NZBWFI/Slc(自己免疫疾患)

WB6F1/Ki-Ki^{gpr}/Slc(肥満細胞欠損鼠-Ki^{gpr}/Ki^{gpr})

WB6F1/Ki-Ki^{gpr}/Slc(肥満細胞欠損鼠-Ki^{gpr}/Ki^{gpr})

NG/Nga(皮膚炎)

☆ Hos: HR-1(ヘアレスマウス)

☆ Hos: HRM-2(メラニン保有ヘアレスマウス)

★ SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫-SAM系対照動物)

★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)

★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)

★ SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)

★ SAMP10/TaSlc(脳萎縮を伴う学習・記憶障害)

AKITA/Slc(糖尿病)

☆ TSOD(2型糖尿病)

C57BL/6JHamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病-*Lep^{ob}*)

C57LKSJ/Jar-*+**Lep^{ob}*/+*Lep^{ob}*(肥満・2型糖尿病-*Lep^{ob}*)

☆ NSY/Hos(2型糖尿病)

C57BL/6JHamSlc-A/+ (肥満)

HIGA/NscSlc(1gA腎症)

C.KOR/StmSlc-Apoe^{0/0}(アポE欠損高血圧-Apoe^{0/0})

C.KOR/StmSlc-Tra3ip2^{0/0}(アトピー性皮膚炎マウス-Tra3ip2^{0/0})

ラット

●アウトブリード

Slc: SD

Slc: Wistar

Slc: Wistar/ST

Hos: Dorenyu

☆ lar: Wistar(Wistar-Imamichi)

☆ lar: Long-Evans

☆ lar: Copenhagen(前立腺癌罹患種)

●インブリード

F344/NSlsc

WKAH/HkmSlc

BN/SSlsc

DA/Slc(薬物誘導性関節炎)

LEW/SSlsc(薬物誘導性関節炎)

●疾患モデル

★ SHR/Izm(高血圧)

★ SHRSP/Izm(脳卒中)

★ WKY/Izm(SHR/Izmのコントロール)

★ SHRSP/Dmcr(NASHモデル【HFC飼料給餌】)

★ SHR/NDmcr-*cp/cp*(肥満・糖尿・高血圧-*Lep^{ob}*)

★ SHRSP/Ezo(AD/HD)

★ SHRSP/IDmcr-*fa/fa*(肥満・高血圧・脳血管障害-*Lep^{ob}*)

DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)

DIR/EisSlc(食塩抵抗性)

Slc: Zucker-*fa/fa*(肥満-*Lep^{ob}*)

☆ Hos: ZFDM-*Lep^{ob}*(糖尿・肥満)

HWY/Slc(ヘアレスラット)

☆ Hos: OLETF(2型糖尿病)

☆ Hos: LETO(OLETFのコントロール)

●モルモット

●アウトブリード

Slc: Hartley

ウサギ

●アウトブリード

Slc: JW/CSK

Slc: NZW

ハムスター

●アウトブリード

Slc: Syrian

●疾患モデル

J2N-k(心筋症モデル)

J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

●インブリード

MON/Jms/GbsSlc

無菌動物(ラット)

●ラット

●インブリード

F344/NSlsc(GF)

エンヴィーゴ(旧ハランOEM生物動物)

●アウトブリードラット

RccHan®: WIST

●インブリードマウス

CBA/CaOlaHsd

●免疫不全モデルマウス

C.B-17/1crHsd-*Prkdc^{scid}*

遺伝子改変動物

●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)

C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpr delta*)

●ヌードマウス

C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)

F344/NSlsc-Tg(*gpr delta*)

Slc:WistarHanover/Rcc-Tg(*gpr delta*)

その他(conventional動物)

●ビーグル犬

☆ 国内繁殖生産(一財)動物繁殖研究所

●カニクイザル

☆ カニクイザル(輸入)

●ミニブタ

☆ 国内繁殖生産

(一財)日生研・NPO法人医用ミニブタ研究所)

●マイクロミニビグ

☆ 国内繁殖生産(富士マイクラ(株))

●フェレット

自家繁殖生産(中伊豆支所)

★ 印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。

受注生産動物

マウス

●疾患モデル

C3H/HeJmsSlc-*cid*(自己免疫疾患動物-*Fas^{cid}*)

C57BL/6 JHamSlc-*bg/bg*(NK細胞活性低下)

CTS/Shi(免疫不全・内臓)

(NZW×BXSb)F1/Slc(紫斑症)

ラット

●インブリード

ACI/NSlsc

●疾患モデル

DafIS.Z-*Lep^{ob}*/Slc

GK/Slc(2型糖尿病)

EHBR/EisSlc(高ビリルビン尿症)

PVG/SeaSlc

KDP1(型糖尿病-Cblh)

WBN/KobSlc(高血糖好発)

WBN/KobSlc-*fa/fa*(高血糖好発-*Lep^{ob}*)

NAR/Slc(無アルブミン症)

NER(自発性糖尿病・慢性腎臓病)

DA/Slc-*tg/tg*(NK細胞機能低下)

SDR(矮小体症ラット)

OM/NSlsc(栄養摂取-腎障害)

FH/HamSlc(脳内ドパミン系の機能不全)

F344/NSlsc-Apoe^{0/0}(大腸癌易発)

Gunn/Slc-*gpi*(高ビリルビン血症)

Slc: WsRc-WsWs(肥満細胞欠損鼠-*c-kit^{fl/fl}*)

モルモット

●アウトブリード

Hos: Weiser-Maples(メラニン保有)

●インブリード

Strain2/Slc

Strain13/Slc

ウサギ

●アウトブリード

Slc: JWF-NIBS(ヘアレス)



日本エス エル シー株式会社
〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町3371-8
TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)
関西エリア (053)486-3157(代)
九州エリア (0942)41-1656(代)

一般社団法人 日本毒性学会

【名誉会員】

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	高橋 道人	榎本 眞
小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫	黒川 雄二
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	

【功労会員】

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和市	永沼 章	姫野誠一郎	眞鍋 淳

【賛助会員】

(五十音順)

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

アステラス製薬(株)

EAファーマ(株)

エーザイ(株)

大塚製薬(株)

花王(株)

科研製薬(株)

協和キリン(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

(株)三和化学研究所

(株)資生堂

昭和電工(株)

(一財)生物科学安全研究所

千寿製薬(株)

大日本住友製薬(株)

武田薬品工業(株)

中外製薬(株)

(株)DIMS 医科学研究所

東レ(株)

日本香料工業会

ファイザー(株)

扶桑薬品工業(株)

Meiji Seika ファルマ(株)

(株)薬物安全性試験センター

Charles River

あすか製薬(株)

(株)安評センター

(株)イナリサーチ

(株)LSIM 安全科学研究所

小野薬品工業(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

杏林製薬(株)

興和(株)

サントリー-MONOUZUKURI エキスパート(株)

塩野義製薬(株)

シミックファーマサイエンス(株)

住友化学(株)

ゼリア新薬工業(株)

大正製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

帝人ファーマ(株)

トーアエイヨー(株)

(一社)日本化学工業協会

日本新薬(株)

富士フィルム(株)

(株)ボゾリサーチセンター

持田製薬(株)

ライオン(株)

【役員】(2020～2021年度)

理事長	菅野 純		
理事	青木 豊彦	上原 孝	小野 敦
	鍛冶 利幸	北嶋 聡	熊谷 嘉人
	古武 弥一郎	児玉 晃孝	小林 章男
	佐藤 雅彦	鈴木 睦	高橋 祐次
	角崎 英志	苗代 一郎	平林 容子
	藤原 泰之	宮脇 出	森 和彦
	吉成 浩一		
監事	天野 幸紀		
	務台 衛		

【学術年会長】

第48回 (2021年) 福井 英夫
 第49回 (2022年) 石塚真由美
 第50回 (2023年) 北嶋 聡

【委員会】(2020～2021年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

●総務委員会	委員長	高橋 祐次
◆連携小委員会	委員長	北嶋 聡
◆評議員選考小委員会	委員長	佐藤 雅彦
◆名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	高橋 祐次
◆指針値検討小委員会	委員長	広瀬 明彦
◆企画戦略小委員会	委員長	宮脇 出

●財務委員会	委員長	青木 豊彦
	副委員長	森 和彦

●編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武 弥一郎
◆JTS 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武 弥一郎
◆FTS 編集委員会	委員長	永沼 章
◆Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆田邊賞選考小委員会	委員長	諫田 泰成

●教育委員会	委員長	鈴木 睦
◆生涯教育小委員会	委員長	鈴木 睦弘
◆基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
	アドバイザー	古川 賢

●学術広報委員会	委員長	児玉 晃孝
◆学会賞等選考小委員会	委員長	堀井 郁夫
◆佐藤哲男賞選考小委員会	委員長	熊谷 嘉人
◆特別賞等選考小委員会	委員長	熊谷 嘉人
◆技術賞選考小委員会	委員長	宮脇 出
◆日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	北嶋 聡
◆学術小委員会	委員長	石塚真由美
◆広報小委員会・HP 担当	委員長	児玉 晃孝

★その他関連の委員会

○IUTOX 担当	IUTOX Executive Committee, Director	熊谷 嘉人
	IUTOX Nominating Committee, Chair	菅野 純
○ASIATOX 担当	ASIATOX Council	小椋 康光
○日本学術会議担当	委員	石塚真由美

2021年4月1日 印刷

2021年4月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 鍛冶利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161